

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和7年度 第1回入間市総合教育会議
開 催 日 時	令和7年7月24日(木) 午後1時00分 開会、午後2時45分 閉会
開 催 場 所	市庁舎 C 棟5階 503 会議室
議 長 氏 名	-
出席委員(者)氏名	市長 杉島理一郎 教育長 中田一平 教育長職務代理者 山本和人 教育委員 橋本清美 教育委員 齋藤良徳 教育委員 齋藤悟
欠席委員(者)氏名	-
説明者の職氏名	企画部副参事(未来共創政策推進担当) 吉田純子 企画課未来共創政策推進室副主幹 齊藤祐樹 教育部参事兼教育総務課長 増岡哲也 教育総務課副主幹 原澤真尚 教育部参事兼学校教育課長 山崎大志 学校教育課主幹 武内秀樹
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	(すべて公開) 1. 開 会 2. 挨 拶 3. 協議・調整事項 (1)教育DXについて 4. 報告事項 (1)未来共創の取組について 5. その他 6. 閉 会

配 布 資 料	資料1-1:教育 DX について 資料1-2:教育総合会議資料(GIGA・校務支援について) 資料1-3:総合教育会議(教育支援ソフトの紹介) 資料2:未来共創の取組について
関係者職氏名	教育部長 浅見泰志 教育部次長 新屋朋徳 教育部参事兼教育総務課長 増岡哲也 教育総務課主幹 小久保昌宏 教育総務課副主幹 原澤真尚 教育部参事兼学校教育課長 山崎大志 学校教育課主幹 東海林大 学校教育課主幹 武内秀樹 教育センター所長 井上博子
事務局職員職氏名	企画部長 浅見嘉之 企画部次長 片岡成浩 企画課未来共創政策推進室副主幹 村上俊 企画課未来共創政策推進室副主幹 齊藤祐樹 企画課未来共創政策推進室主任 松岡美紗 企画課未来共創政策推進室主事 高橋佑季
会議録作成方法	要点筆記
傍 聴 者 数	1 人

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

<協議・調整事項>

(1)教育DXについて

国内における教育DXの取組事例や、入間市の教育 DX の取組状況について報告し、それに対して市長、教育長及び各委員が意見交換を行った。

<報告事項>

(1)未来共創の取組について

令和6年度に「いるま未来共創ラボ」に企業から提案があり、子どもたちを主体として実証実験が行われた共創の取組事例について報告を行った。

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
	(委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する)
	<進行:企画部長>
	1. 開会
	2. 挨拶
	3. 協議・調整事項
	(1)教育 DX について
企画部長	「教育 DX について」、はじめに企画部より説明を願う。
企画部副参事	国内における教育DXの取組事例について、説明する。 (資料1-1を説明)
企画部長	続いて、教育部より説明を願う。
教育総務課長	市内小中学校での現在の取組について、説明する。 (資料1-2を説明)
学校教育課主幹	入間市で導入されている教育支援ソフトについて、説明する。 (資料1-3を説明)
企画部長	意見交換を行う。委員のご意見をお願いする。
市長	現在、当市の教育 DX は良い方向性で進めていると感じたが、ハードウェアとソフトウェアの技術は日進月歩で向上しているため、現時点で最良

発 言 者	発 言 内 容
教育長	のものを導入したとしても、習熟度が上がった頃にはさらに優れた技術が登場している可能性がある。入間市の教育 DX を先進的なものに保っていくためには、どのくらいの頻度で更新する必要があるのだろうか。 新しいものが開発されるたびに入れ替えを行うよりも、ICT を活用して児童・生徒たちの思考時間の確保と多様な学びを提供できるようにしたいと考えている。また、各個人が家庭内でタブレットを使い、どれ程の時間学習したかを把握することができる等、DX が教育の推進において有効な手段であると考えている。
市長	家庭学習調査によると、子どもの AI を用いた学習に対して肯定的な意見を持つ保護者も否定的な意見を持つ保護者も 2 割程度であり、ほとんどの保護者はどちらでもないという回答結果であった。この状況をみると、現時点では教育 DX が子どもの可能性を広げる手段として有効か判断しきれないと感じる。子どもたちが社会に出た時に活躍できるような教育を推進していきたいが、教職員や保護者が教育 DX についてどう感じているか、今後継続的に調査し、10 年等の長い期間をかけて判断する必要があると考える。
教育長	教育 DX の有効性を判断するのは難しく、その代表例がデジタル教科書であると思う。他国ではデジタル教科書を取りやめ、紙の教科書に戻している例もあり、こういった事例が判断に迷う要素の一つとなっている。ただし、他国のデジタル教科書のデメリットはそのまま日本にとってもデメリットになるわけではないので、他国の動きを鵜呑みにする必要はないと考える。また、市として、児童・生徒の成長を可視化できる取組を進めていくことができれば、教育 DX に対する保護者の意識も変わってくるだろう。

発 言 者	発 言 内 容
齋藤悟委員	子どものスマートフォンの普及状況や利用状況を考えると、家庭で十分な学習時間を確保できているか、保護者は不安に感じていると思われる。
	また、保護者は個人情報等のセキュリティについても不安を抱えているだろう。教育 DX は便利である一方、注意が必要な部分もあるため、教職員はこれらの点を考慮し、児童・生徒に使用させることを意識していると考ええる。
山本委員	保護者連絡システム「TeToru」の活用により、これまで学校を経由していた連絡が保護者に直接送付されるところのことだが、これにより学校が保護者への連絡内容を把握していない事態が生じるのではないかと懸念している。
教育総務課長	そのような状況は発生しないよう運用していく。
山本委員	ロケーションフリー環境の整備について、セキュリティ面について不安がある。
教育総務課長	すべてのアクセスを常に検証する「ゼロトラスト」という方法でセキュリティをかけている。
山本委員	ドリルソフトはA I が児童のレベルに合わせて問題を出題するということが、少しずつ問題の難易度を上げてステップアップさせる等の対応は可能なのだろうか。問題の出題をすべてA I に任せてしまって良いのかという懸念がある。
武内主幹	ドリルソフトの問題の出題方法については、従来通りの方法とA I を用いた方法の 2 種類がある。学校現場では、従来通りの方法で全員へ同じ問題

発 言 者	発 言 内 容
山本委員	を出題することにより評価を行うことができる。また、学力の高い者へ高難易度の問題を出題する機能も搭載されており、プログラムを終了すると追加で高難易度の問題が出題されるようになっている。 A I を教育の現場で活用するにあたり、保護者が子どもへの指導を難しく感じることもあるかと思う。学校として、このような保護者の悩みに対応する相談体制の構築も必要なのではないかと考える。
武内主幹	保護者からA I の活用について相談が寄せられたという報告は、現時点では学校から届いていない。国がA I の活用に関するガイドラインを出しているが、入間市としても今後学校の実態を確認しながら整備していく必要があると考えている。
橋本委員	保護者として、子どもがタブレットを使っている様子を見ても、勉強しているのかどうかかわらず、また、学習の理解度を把握できないことに不安を感じている。一方で、最近では教員による子どもの盗撮事件の報道が多い。このため、教員は教室内に個人のスマートフォンを持ち込まず、教材の準備などもすべて学校のタブレットで行えるように整備されていくと良いと考える。
教育長	教員の働き方改革のなかで家庭訪問が廃止されたが、家庭訪問の目的を他の方法で達成する必要があると考えている。また、子どものスマートフォンやパソコンの使用時間も増えていることから、姿勢や視力といった健康問題についてもデータを取る必要があると考えている。
齋藤良徳委員	子どもたちが将来デジタル技術を使いこなせる人材となるためにも、ドリルソフトのような先進的なツールは日進月歩で技術が向上することを見越し、導入のための予算を確保していただきたい。また、ロケーションフ

発 言 者	発 言 内 容
	リー環境の整備については、情報漏えいの不安を感じており、他自治体の導入・活用状況を見てから導入を検討するのが良いと考える。
齋藤悟委員	DX は今後さらに教育現場で当たり前のものになるだろう。学校と子どもと保護者の３者がデジタル技術を安心して活用できる社会を築くことが重要である。また、これと同時に、家庭、学校、地域等で人と人とのコミュニケーションも大切にしていかなければならないと考える。
山本委員	DX は学校教育だけではなく、社会教育でも導入できたら良いと考える。
	4. 報告事項
	(1) 未来共創の取組について
企画部長	「未来共創の取組について」、企画部より説明を願う。
齊藤副主幹	未来共創の取組について、説明する。
	(資料2)の防災教育キット「はるる一と」を使用した取組を説明
企画部長	意見交換を行う。委員のご意見を願います。
橋本委員	今後、地区センターや建て替えを終えた市役所で、子どもたちが「はるる一と」を貼る取組を実施できれば、社会貢献の経験につながり、良いと考える。
齊藤副主幹	今回は学校の授業で活用する防災教育素材としての実証実験であった。 「はるる一と」は、学校での授業だけではなく、公共施設で活用する考え方もあるだろう。「はるる一と」の取組を発展させていくなかで、検討しても良いと考える。

発 言 者	発 言 内 容
市長	藤沢東小学校で実証実験を実施させていただき感謝申し上げます。今後とも学校にとってよい取組を実施できるよう、意見をいただきながら検討していきたい。
教育長	「はるるーと」については、実証実験を行った藤沢東小学校からも良い意見をもたらしている。児童・生徒も座学だけでなく、活動の時間があると楽しく学ぶことができると考えている。今後も、学校にとっても、児童・生徒にとっても良い取組ができるよう、検討していきたい。
	5. その他
企画部長	連絡事項として、事務局より、次回の総合教育会議の日程について申し上げます。
企画部副参事	次回の総合教育会議は、令和 7 年 12 月下旬の開催を予定している。詳細等が決まり次第、改めて連絡する。
	6. 閉会
企画部長	以上で閉会とする。

発 言 者	発 言 内 容
議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。	
令和7年 9 月 8 日 市 長 の 署 名 杉 島 理 - 郎 教 育 長 の 署 名 中 田 一 平	